

卒業生を代表して

創立60周年、おめでとうございます。本校が60年もの長きにわたり、多くの治療家を世に誕生させ、また広く人々に愛され続けてきたことを卒業生として、心より誇りに感じます。

創立60周年となる記念事業を迎え、私は実行委員長として今日、記念事業開催をどう受け止めて良いのかどうか、このお話をいただいた時より、しばらく考え続ける日々が続きました。正直に言ってしまえば、入学時に生涯会員として校友会費を納め、在学中には国家試験の勉強と学費捻出のため、アルバイトを必死に休みなくやっていた頃の私は『将来、とにかく成功したい!』という野望だけで、ハッキリ言って自分のことしか考えておりませんでした。それが不思議なことに22年間という月日が経過し、今こうして校友会会長となり、実行委員長という大役まで引き受ける運びとなりました。学校の受付事務の方々からは私を親戚のように優しく接していただき、また専門科目の先生方からは未知の大海原に繰り出す不安な私をまるで豪華客船の船長のように専門知識としての『業』としてだけでなく、『仁』としての他人に対する親愛の情、優しさを教えていただきました。先輩・後輩・同級生に至っては年齢という枠を超え、真摯に、そして切磋琢磨し、時にライバルとして同志としてその時々の私を鼓舞してくれていました。だからこそ今の私が在るのだ、と理解しております。このような“人”との深い縁に加え、日本でも指折りの観光地でもある“熱海”という場所柄が静岡から独り上京してきた私にとって何より、何よりも暖かく迎えてくれたことで少しも寂しく感じることはありませんでした。

思えば十数年前、毎年行われている校友会の研修内容に興味を持ち、随分と久し振りに母校を訪ねてみました。その会場の席で、まるで在学生と変わらない杉山校長先生をはじめ、学生時代お世話になった先生方や卒業してから久し振りに逢えた校友の笑顔にすっかりほだされて、『この学校を出てよかったなあ…』という感謝の想いに気付かされました。学び舎として母校が今も変わらず、その場所にあって年を重ねるごとに立派になっていくことを、私も負けじと進歩していこう、と気持ちを引き締め日々精進しております。

今後も益々発展するであろう、母校と校友会共々よろしく願いを致します。いつもありがとうございます。

60周年、本当におめでとうございます!

校友会
会長
岡村
郁生

